

# 一般質問11人が登壇

「紙面の都合により、質問と答弁の要点のみ掲載しています。」市議会会議録は、議会議務局、図書館、公民館、庁舎、地区行政センターなどの公共施設、またはホームページにて閲覧できます。なお、12月定例会会議録は3月中旬から閲覧可能です。

## 緑川 棋生

**問** 市民協働を推進するための施策を問う。

**答** 市長と行政がパートナーとして、それぞれの特性を生かし相互に補完しながら、知恵を出し合い、まちづくりを進めていくことは、市政運営の柱で、重要であると考え、推進を図る取り組みとして市民活動団体と情報、意見交換の場となる窓口を一本化し地域支援課を新設した。ここでは、地域づくりに関する助言や活性化支援事業、各種助成事業の相談に応じている。

また、各庁舎総務課に、それぞれ担当を配置し相談等の業務を行っている。今後は、現状の体制の中で、市民活動団体と行政がそれぞれ持つ、知識や能力を出し合い、活動成果が最大限に発揮されるよう、支援業務の充実を図っていきたいと考える。

質問の主旨

市民協働の推進は、地域づくりに汗を流す人達の願いである。さらなる市当局の推進策を大いに期待し、質問したものである。

## 室井 伸一

**問** 孤立死防止対策について

**答** 白河市では現在、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯等を対象として、「あったからンチお届けサービス」、「あったか訪問収集事業」、「お元気コール事業」、「あったか訪問事業」、「緊急通報システム事業」を実施し、緊急時の不安解消や安否確認に取り組んでいる。また、民生委員や地域包括支援センター、居宅介護支援事業者と連携を密にし、高齢者の見守りを進めている。今後も、きめ細やかな福祉サービスの充実に努めるとともに、会津若松市の取り組みも参考にしながら、高齢やひとり暮らしになって、孤立することなく、住み

慣れた地域で安心して生活を続けられる地域づくりの推進に取り組んでいきたい。

「会津若松市の取り組み」とは、

ガスや水道のほか、飲料業、金融機関、電気、郵便など生活に関係する事業所と市、警察署の三者連携による「会津若松市孤立死防止等ネットワーク」を昨年10月1日に設立し、高齢者の見守りに取り組んでいる。



お元気コール事業

## 大竹 功一

**問** 中心市街地活性化について、改めて市長に問う。

**答** 今後、残り1年3カ月の計画期間において旧農協会館跡地住宅整備事業、小南湖整備事業、空き店舗対策事業など計画のさらなる推進を図り、魅力ある街づくりを官民一体で進めたいと考えている。

**問** 放射能の除染について、各地域の今後の予定はどうなっているのか。

**答** 大信地域の仮置き場は12月半ばの供用開始を見込み、個人住宅除染については11月に29世帯を対象にモデル除染に着手、12月中には隈戸地区350世帯の年度内完了を目標に発注、25年4月には信夫地区700世帯の除染に着手する予定。白河地域については旗宿地区に予定の仮置き場を25年9月までに整備し、供用開始させる予定。住宅除染については、除染計画に基づき、小田川・白坂・旗宿から作業開始の予定。表郷地域については仮置き場の周辺整備を現在進めており、除染については来年度以降の予定。東地域は現在仮置き場を選定中である。



旧農協会館跡地住宅整備事業

## 深谷 博歩

**問** 歴史と文化のまちづくりに関し、閑跡周辺の整備状況と計画を問う。

**答** これまでも、閑の森公園や、白河の閑跡の遊歩道を整備し、誘客を図ってきたが、さらなる付加価値を高めるため、現在、閑の森公園「花の里構想」を進めているところであり、石段整備や案内板設置についても関係機関と連携し前向きに検討を進める。

**問** 3月の質問内容の確認。地デジ関連で難視地域の状況や光ファイバー敷設後の加入実績と採算性を問う。

**答** 南中継局の開局により難視戸数114地区3820戸のうち、おおむね2600戸が解消され、今後は個別受信対応工事支援と難視区域、12区の共同受信組合の立ち上げ支援中で400世帯が対象である。光ファイバー事業では加入戸数が予定の700戸を超え、表郷局で75戸、東局で582戸の計1338戸になり、市が保守管理費用負担はせずとも良いので採算性は確保されている。

**問** 中心市街地活性化事業の成功には、「楽蔵」や図書館、市民文化会館等ハード面整備が進む中、人々が集まりたくなる仕掛けのソフト面整備に若者や女性の参加が必要と考えるが、市の考えを問う。

**答** 街の活性化には息の長い取り組みが必要。地域住民、若者や女性の参画、各種団体と行政の連携の総合力が必要。市も若者や女性が自ら取り組む街づくりを支えていく。

**問** 新撰組三番隊隊長斉藤一が宿泊した旧脇本陣柳屋旅館の整備について

**答** 「歴史的風致形成建造物」として指定し整備保存活用用の検討中だが、NHK大河ドラマ「八重の桜」の影響の観光客への対応は所有者の協力を得ながら敷地内部の見学が可能となる態勢を図りたい。

**問** 第1回More1グランプリ受賞の「小峰シロ」を活用したまちづくりについて

**答** 小峰シロは小峰城に伝わる「おとめ桜」の伝説を基にした観光物産協会の公認キャラクターで若者に人気があり関連グッズも売れているので、その活用を検討する。



新島八重マスコットキャラクター「八重たん」

戸倉耕一

**問** 狩猟免許取得支援事業を新設できないか。

**答** 白河市有害対象狩猟鳥獣捕獲隊員を任命し、有害鳥獣の捕獲を行っているが、原発事故による放射性物質の影響から、捕獲活動が停滞し鳥獣が増加したことにより、今年度の農作物への被害が増大している状況である。来年度においても、イノシシの増加や生息範囲の拡大により、農作物等への被害増加が懸念されるので、本市としては、捕獲隊に頼るばかりでなく、防護柵や防鳥網による予防等被害対策に取り組みたい。

捕獲隊が担う役割は、被害防止の観点から大変重要であるとの認識しているが、現状は後継者不足・高齢化が深刻な問題となっている。

免許取得の助成については、現在の免許保有者との均衡を図る観点から、難しいと思われるが「捕獲隊員の活動を条件とすること」などについて、今後十分検討するとともに、25年度より、県のイノシシ捕獲助成制度の活用や、市でも報償制度を設ける方向で検討したい。

水野谷正則

**問** 公共施設への命名権（ネーミングライツ）導入について

市民会館は、本市の芸術文化を創造する拠点として多くの来館者が期待でき、企業も広告価値や社会貢献性の点で効果が高いことから、財源確保と施設の魅力向上のため命名権の価値があると思うが、その導入について考えを問う。

**答** 現在、全国約200施設で導入されている。実現に至るまでには乗り越えなければならぬ数多くの課題もあるが、多岐にわたってメリットが考えられる。調査していきたい。

**問** 生活道路及び歩行者の安全確保について

全確保について

日常生活に欠かせない安全な生活道路や通学路及びまちづくりや観光等の観点からも、歩行者が安心して回遊できる道路の整備等も大変重要と考えるが、当局の考えを問う。

**答** 側溝の整備や電柱等の道路区域外への移設などを行い、現況の道路幅員を有効に活用することにより、歩行空間を確保し、高齢者や児童・生徒も安全で安心して歩ける道路整備を重点的に実施したい。



市民文化会館館内イメージ

柴原隆夫

**問** 45年前に建設された中央公民館は、雨漏りなど建物全体が老朽化しており、駐車場

も狭く利用者は不便を感じている。中央公民館はその使命を十分果たしたと思う。改善が強く望まれている。公民館に生きがいを持って通っていただける多くの市民のために新たに整備してはどうか。

**答** 市民文化会館をつくって、その後の財政状況等を見て検討したい。

新市民文化会館について

**問** 福島県の中中高校生の吹奏楽、管弦楽、合唱は全国レベルで、県大会への出場校は東北大会、全国大会を目指している。80億円を超える建設費であるから、白河の未来の文化を担う小中高校生のコンクール等の県大会が県南の中心都市白河で開催できる施設にしてほしいと考える。

今後、長きにわたり多くの世代が使用することになる。**答** 現在進めている実施設計の中で十分に精査、検討したい。

石名国光

**問** 自然を利用した「再生可能エネルギーまちづくり」を宣言してはどうか。

**答** 今、原発エネルギーのあり方を見直す必要から、県・市の動向を注視し、分散型の

産業として定着する可能性の高い「再生可能エネルギー」

導入の推進、これらの情勢や可能性を踏まえ、さまざまな具体策を講ずる必要性があれば検討してまいります。

**問** 市内開業医の年齢構成や、原発事故により医師が集まりにくい状況にあるが、10年先の体制を考え、今から、医師会と連携を深め、十分な対策をとる必要があると考えるがどうか。

**答** 初期医療を担う開業医の確保は、重要な課題であり管内の担当者会議や、医師会とも協議を重ね医師確保の方策を調査・検討し、管内の自治体とも連携してまいりたい。

**問** JRステイネーション「DC」は全国の駅等に、ポスター掲示や旅行商品開発などが計画される。「DC」活用に向けた対策と取り組みを伺う。

**答** 「八重の桜」による誘客を継続させ、さらに本市の歴史的資産の付加価値を高め、今から準備を進めたい。

### 深谷 弘

#### 被災者支援について

**問** 18歳以下の医療費無料制度の対象は、県内居住者だけである。事情により県外移住を選択した避難者も適用するよう、県に制度改善を求めるときではないか。

**答** 制度の趣旨から、県に申し入れる考えはないが、今後、県の動向を注視していく。

#### 来年度予算編成について

**問** 市民のくらしは大変である。負担軽減のため、ごみ袋料金値下げを実施できないか。指定ごみ袋処理手数料収入は、この6年間、5市町村合計で約1.1〜1.2億円、その一方、衛生処理一部事務組合分担金は年々減少している（市分担金は8億円から5億円へ約3億円減っている）。市がリーダーシップを発揮し、分担金のやりくりなど提案すれば実現可能ではないか。

**答** 建設後17年経過したクリーンセンターは、今後、設備の補修費用の増加が見込まれる。今後分担金にも影響してくるので、現行のごみ袋単価が必要だと聞いている（値下げに取り組み考えはない）。

### 北野 唯道

#### 放射能と除染について

**問** 放射能と除染について各部長に伺う。総務部関係で除染を行った場所について

**答** 大信庁舎の除染を8月22日に発注している。

**問** 信夫第一小学校の裏の旧信夫中学校跡地の除染はどうするのか。

**答** 境界付近は線量が高く児童の安全を考慮し同境界付近へ近づかないよう指導する。

**問** 平成24年度実施のカリ配付は25年度においても実施するのか。

**答** 塩化カリウム肥料による水田の放射性物質の吸収対策については国の実証実験でも効果が高い結果が示され来年度においても安全な米の生産に万全を期して取り組んでまいりたい。

**問** 白河市が支給する社会保険費について

**答** 社会保障費のうち、社会福祉費は延べ1万1972人に5億9204万7040円を支給している。次に要介護等認定者延べ7万3041人に38億5699万2459円を支給している。

### 商工会議所・商工会との意見交換会

去る、11月30日、商工会議所及び商工会との意見交換会が開催され、議会からは、議長、副議長のほか、各委員会の正副委員長が、商工会議所からは会頭、副会頭のほか各委員会の正副委員長や委員、各商工会の会長及び事務局職員の計39名が出席しました。

意見交換会では、市議会から、議会運営、総務、市民産業、教育福祉、建設水道、議会報編集の各委員長の概要説明の後、表郷、大信、東の各商工会長並びに商工会議所の総務運営、地域振興、商業活性化、情報化、環境整備、観光開発、まちづくりの各委員会から活動概要について説明がありました。



商工会議所・商工会との意見交換会

## 傍聴席

12月定例会の傍聴者数は次のとおりです。（延べ人数）

12月7日（金）	3人
13日（木）	8人
14日（金）	1人
17日（月）	38人
20日（木）	1人

### ●おわびと訂正

議会だより第28号（平成24年10月31日発行）6ページの記事の中の「白河市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）」の説明文中の金額及び最終14ページの表紙写真の説明に誤りがありましたのでおわびして訂正いたします。

歳入歳出予算総額	（誤）「億2144万2000円」
	（正）「5億2144万2000円」
表紙写真の説明	（誤）「就山満願寺」
	（正）「成就山満願寺」